

小麦の収穫期における乾燥剤の使用が穀粒および小麦粉の品質におよぼす影響

多田正敏・西村昭司郎・神前芳信

小麦の収穫期における乾燥剤の散布と早刈りが品質におよぼす影響を検討した結果、乾燥剤が製粉性におよぼす影響は比較的少ないが、生地物理性は明らかに劣化することが認められた。また早刈りした場合には特に品質への悪影響は大きかった。すなわち乾燥剤を散布することにより同化作用が抑制され穀粒への成分の集積が阻害されるように思われ、そのため未熟粒の状態が各調査項目の成績からみられた。

乾燥剤の種類比較では1-B-1が品質におよぼす被害が比較的少なく、HERBICIDE-282は特に品質の劣化が大きかった。したがって当試験の範囲による乾燥剤の使用は品質的立場からさらに検討を要し、今後薬剤の選択と散布濃度、散布時期などについての検討が必要であろう。